

第32回人流データ利活用研究会 議事概要

1. 日時 2024年3月19日(火) 15:00~17:00
2. 場所 総務省第二庁舎408室
3. 議事内容
 - (1) 日本人延べ宿泊者数推計（3月発表分）都道府県
 - 2024年1月、2月の推計結果（前年同月比、2019年同月比）は、これまでのように日本人宿泊者数の上昇、回復といった正方向への傾向が日本全体で明確に出ておらず、地域差が表れ始めている
 - 2023年12月推計では、統計値との乖離が大きい県が散見される。特に、これまで乖離率がおおむね低く抑えられていた北海道で、過剰推計が行われている点は注視すべき
 - 推計結果とその評価がこれまでと異なった傾向を示している背景には、日本人の宿泊数がほぼ飽和に達しつつあること、また急増する外国人旅行者の動向があると考えられる
 - トレンドの転換期とも考えられるため、今回、乖離が多く発生している原因が、1) 過去のトレンドに基づく推計式に起因するものなのか、2) データ側の問題であるのか、は精査する必要はある
 - (2) 人流メッシュデータを用いたバス輸送効率性評価方式
 - 国勢調査を使用した場合と人流データを使用した場合で、相関係数はそれぞれ0.95、0.90となっているが、有意差があるかをフィッシャーのZ変換で検証した方が良い
 - 後日、有意差がないことを確認
 - (3) 人流データを活用した国内宿泊者数の試算（連携会議報告）
 - 各社の特徴をより明確化するために、クラスター分析の実施や、明らかに早朝に人がいないところ（e.g. 大学周辺）など特徴がはっきりしているメッシュで分析してみると良い
 - (4) 国勢調査困難地域の推定
 - t検定の結果が誤っていないか計算方法などを確認する
 - (5) その他
 - 今年度の研究実績、来年度の予定に関して説明した
 - 本研究会が正式にビッグデータ連携会議の配下に位置付けられたことを報告した
 - 次回の研究会は5/29(水) 15:00~17:00と設定した

以上